

こどもホスピスにおける トータルケア Online



主催 公益財団法人原田積善会 共催 NPO法人福岡子どもホスピスプロジェクト

目的

命に関わる病気や重い障がいを持つ子どもの生活の質の向上と家族全体の継続的なサポートを重視する小児緩和ケア。その実践の場としての「こどもホスピス」が今、各地で広がっている。こどもホスピスにおいて軸となるいくつかの要素の基礎的知識の習得、在宅支援施設としてのこどもホスピスの役割などを学習します。

対象者 命に関わる病気の子供と家族の支援に関心のある地域住民、医療・福祉・教育関係者、学生など。

日時 2023年12月23日(土)9:30~15:30 / 12月24日(日)9:50~14:30

*オンラインでの開催です。お振込み後にアクセスリンクをご案内いたします。(アーカイブあり)

プログラム (敬称略)

12月23日(土) (9:00 受付開始)

- | | |
|-------------|--|
| 9:30 | 開会 |
| 9:45~10:35 | 「福岡における小児がん拠点病院と連携病院の取組み」
中山秀樹 (国立病院機構 九州がんセンター 小児・思春期腫瘍科 医長) |
| 10:35~11:30 | 「小児緩和ケア ~問いと希望~」 笹月桃子 (西南女学院大学保健福祉学部 教授/九州大学大学院医学研究院 共同研究員) |
| 11:30~12:25 | 「病児の気持ちと教育:院内学級のこども達に教わった大切なこと」
副島賢和 (昭和大学大学院保健医療学研究科・准教授) |
| 12:25~13:10 | 休憩 |
| 13:10~14:05 | 「小児病棟における心理社会的支援の実践」 野田扶美枝 (福岡大学病院 チャイルド・ライフ・スペシャリスト) |
| 14:10~15:05 | 「子どもを亡くした家族に対するグリーフサポート」
濱田裕子 (第一薬科大学看護学部教授/NPO法人福岡子どもホスピスプロジェクト代表) |
| 15:10~15:30 | 閉会 |



12月24日(日) (9:00 受付開始)

- | | |
|-------------|---|
| 9:50 | 開会 |
| 10:00~10:55 | 「こどもの成長・発達」 佐藤貴虎 (旭川市立大学短期大学部副学長・幼児教育学科 教授) |
| 11:00~11:55 | 「病気のある子どものきょうだいの支援」
清田悠代 (NPO法人しぶたね理事長) シブレッド (NPO法人しぶたねプログラムディレクター) |
| 12:00~12:50 | 昼休憩 |
| 12:50~13:45 | 「地域で支えるこどもホスピスの実践」 田川尚登 (認定NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクト 代表理事) |
| 13:50~14:15 | 「家族の物語を続けるために。ー活動報告ー」 内藤真澄 (NPO法人福岡子どもホスピスプロジェクト理事) |
| 14:15~14:30 | 閉会 |



参加費 2,000円 (1日のみの参加でも参加費の変更はありません)

お申込み方法 右記のフォームよりお申込みいただき、参加費のお振込をお願いいたします。

お問い合わせ 070-2477-1180 (担当 飯山) haradasek100@gmail.com

お申込みはこちら



<https://2023seminar1.peatix.com/>

こどもホスピス について

日本には小児がんなど生命を脅かす病気や状況にある子どもたちが約2万人いますが、そうした子どもや家族を支援している在宅支援施設はまだ殆どありません。イギリス発祥の「こどもホスピス」は医療施設ではなく、家（うち）です。治療を諦める場所ではなく、家庭的な環境の中で友として寄り添いながら楽しい時間を創りだしていく場所です。どんなにつらくても子どもは遊びや学び、体験を通して、成長と発達を続けています。こどもホスピスは、病気の子供だけではなく、きょうだいを含む家族全体の豊かな時間を大切に、闘病中から旅立ちの後まで、地域全体で見守り継続的にサポートしていくことを目指しています。



講師紹介（敬称略）



中山 秀樹（なかやま ひでき） 国立病院機構九州がんセンター 小児・思春期科 医長

1960年生まれ。山口大学医学部卒。九州大学病院、浜の町病院、福岡東医療センター等を経て2017年より国立病院機構九州がんセンター小児・思春期科医長。医学博士。小児科専門医。血液学会専門医。福岡大学医学部、第一薬科大学看護学部、令和健康科学大学の非常勤講師。にこスマ九州、福岡ファミリーハウスの理事。



笹月 桃子（ささづき ももこ） 西南女学院大学保健福祉学部 教授／九州大学大学院医学研究院 共同研究員

1994年、熊本大学医学部卒業。以降、小児科医として、九州大学病院等で、特に重篤な病や障害を持つ子どもたちの医療に携わる。九州大学病院の小児緩和ケアチーム・小児倫理コンサルテーションの活動、小児緩和ケアの教育・啓発活動、小児の生命倫理に関わる研究・社会活動を継続中。



副島 賢和（そえじま まさかず） 昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授

東京都公立小学校教育諭として25年間勤務。内8年間品川区立清水台小学校「昭和大学病院内さいか学級」担任。学校心理士スーパーバイザー。ホスピタル・クラウン。横浜こどもホスピスプロジェクト、北海道こどもホスピスプロジェクト・応援アンバサダー。著作に『あかはなそえじ先生のひとりじゃないよ』（教育ジャーナル選書／2015年）『心が元気になる学校』（プレジデント社／2016年）『赤はな先生に会いたい!』（金の星社／2018年）等。ドラマ『赤鼻のセンセイ』（日本テレビ／2009年）のモチーフとなる。2011年には、『プロフェッショナル仕事の流儀』（NHK総合）に出演。



野田 扶美枝（のだ ふみえ） 福岡大学病院 小児科 チャイルド・ライフ・スペシャリスト

北海道医療大学看護福祉学部卒業後、留学先のアメリカでチャイルド・ライフの分野と出逢う。ミルズ大学教育学部チャイルド・ライフ修士課程を修了。帰国後、東京医科歯科大学病院小児科での勤務を経て、2010年より福岡大学病院小児科に勤務する。



佐藤 貴虎（さとう たかとら） 旭川市立大学短期大学部副学長・幼児教育学科 教授

上智大学文学部教育学科卒業。上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程修了。The University of ManchesterにてPh.D.(博士号)取得。難病とともに生きるこどもの心理社会的支援が専門。公職として旭川市子ども子育て審議会会長、上川圏域障がい者が暮らしやすい地域作り委員など。2017年「一般社団法人北海道こどもホスピスプロジェクト」創設。



清田 悠代（きよた ひさよ） NPO法人しぶたね 理事長

大阪府立大学社会福祉学部卒業。社会福祉士。心臓病の弟がいた経験から「しぶたね」を立ち上げました。

シブレット NPO法人しぶたね プログラムディレクター

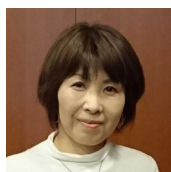
きょうだいのためのヒーロー「シブレンジャー」の赤。

きょうだいのためのワークショップや、小冊子の作成配布、支援者向けの研修、講演、啓発活動などを通してきょうだいを応援しています。



田川 尚登（たがわ ひさと） 認定NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクト 代表理事

2003年NPO法人スマイルオブキッズを設立。2008年病児と家族の宿泊滞在施設リラのいえを立ち上げる。2017年NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクトを設立し、代表理事に就任。他NPO法人脳腫瘍ネットワーク理事、神奈川県立こども医療センター倫理委員を務める。「病気や障害がある子ども家族の未来を変えていく」をモットーに小児緩和ケアとこどもホスピスの普及を目指している。



内藤 真澄（ないとう ますみ） NPO法人福岡子どもホスピスプロジェクト 理事

福岡県飯塚市出身。2009年当時1歳の息子が急性骨髄性白血病になり入院治療に付き添う。約2年間の入院闘病生活後3歳で息子を見送る。2015年以降、がんの子どもを守る会九州北支部幹事、九州大学病院親の会すまいる代表、福岡ファミリーハウス理事を務めた後、福岡子どもホスピスプロジェクト理事としてご家族に直接関わる。



濱田 裕子（はまだ ゆうこ） NPO法人福岡子どもホスピスプロジェクト／第一薬科大学看護学部 教授

聖路加看護大学卒業後、看護師・保健師を経て、看護教育に携わる。専門は小児看護学・家族看護学。子どもを亡くした家族のグリーフサポートや人材育成をテーマに教育・研究・実践活動を行うとともに、福岡に、子どもホスピスを創るべく活動をしている。著書に「空にかかるはしご〜天使になった子どもと生きるグリーフサポートブック〜」等。